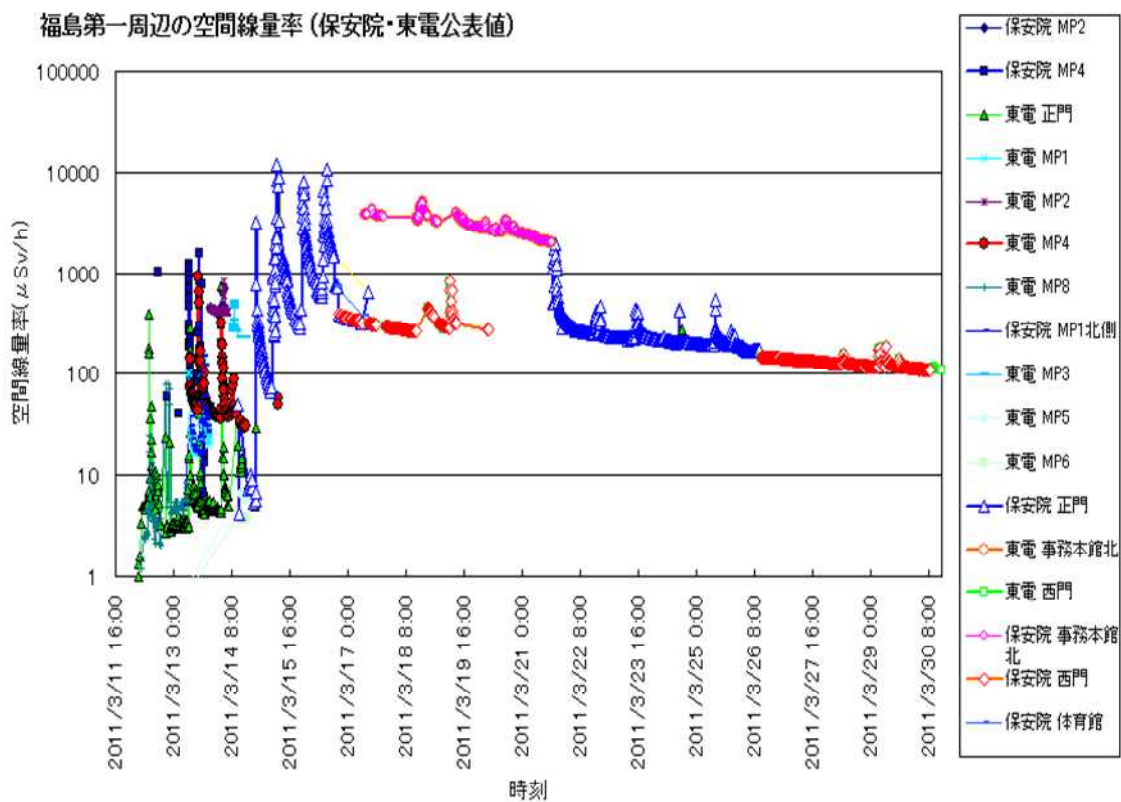


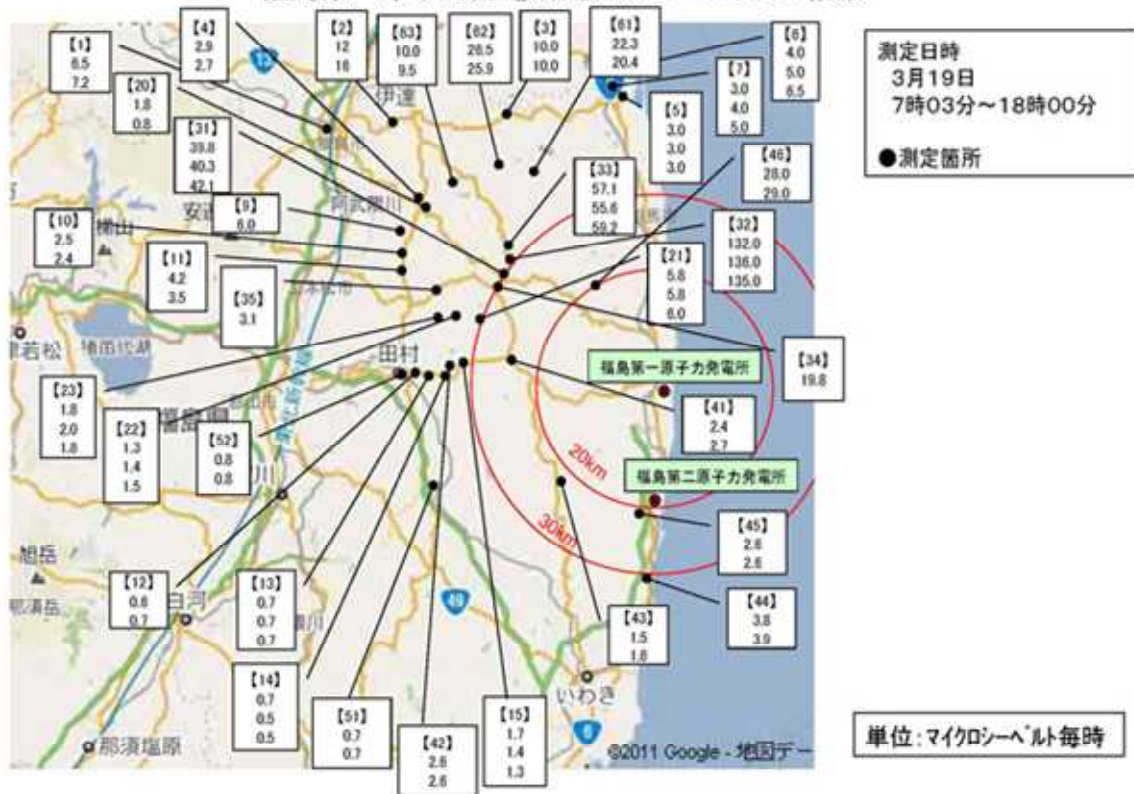
東北大学対話

放射線関係
2011年5月30日

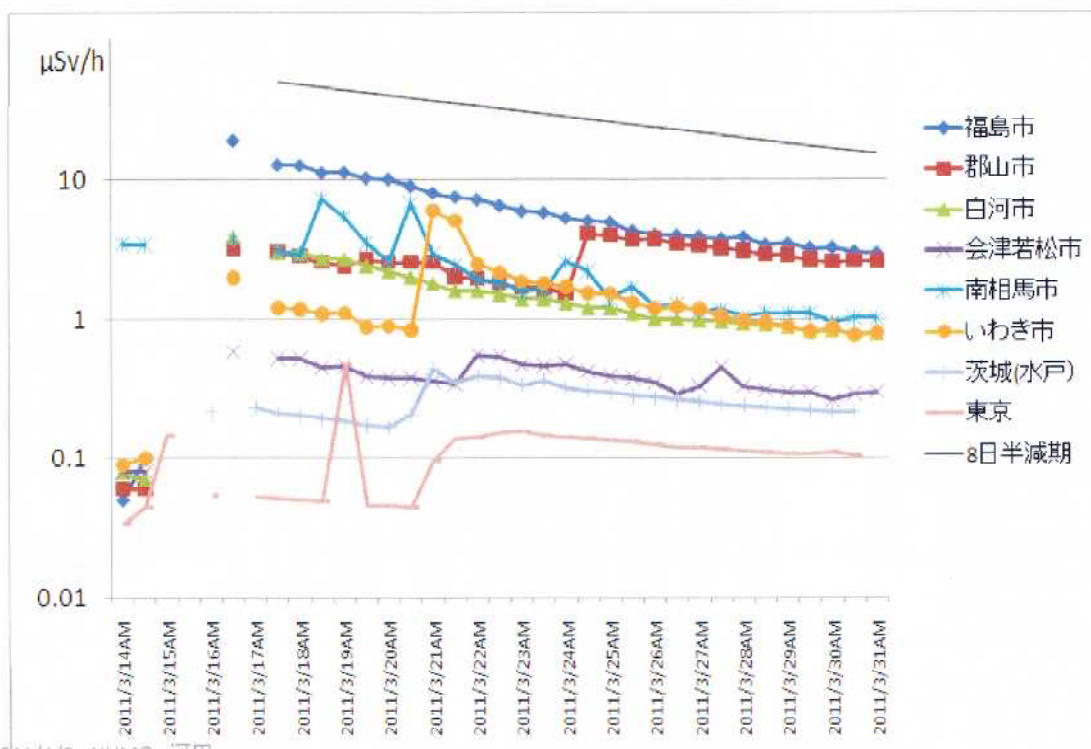
SNW
斎藤 修



福島第一原子力発電所周辺のモニタリング結果



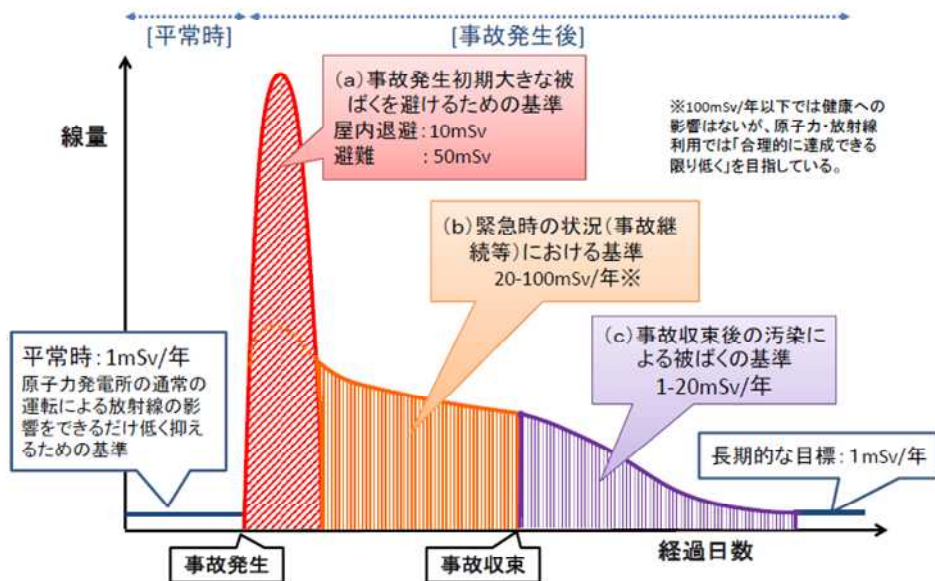
各地の環境放射線量率



2011/4/2 NUMO 河田

5

放射線防護の線量の基準の考え方



ICRPの緊急事態勧告

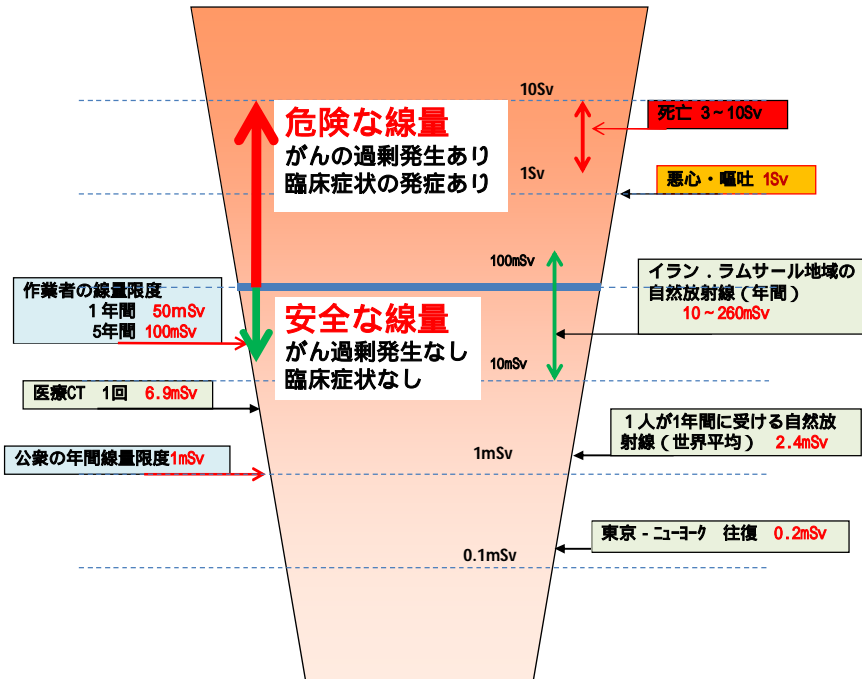
2011年3月21日

日本の緊急事態に対して文書を出して次を勧告

(ICRP2007年勧告に記載)

- **緊急状態**
当面の線量の限度を **20 ~ 100mSv**の間で、日本が決めてください
- **事故回復期**
線源が制御できるようになったら**20mSv以下**する
- **平常時**
最終的には**1mSv以下**にする

安全な線量とその他の線量



安全な線量

- 国際放射線委員会 (ICRP)

100mSvは 早期障害はなく、がんの確率も低いので、合理的であれば採用できる

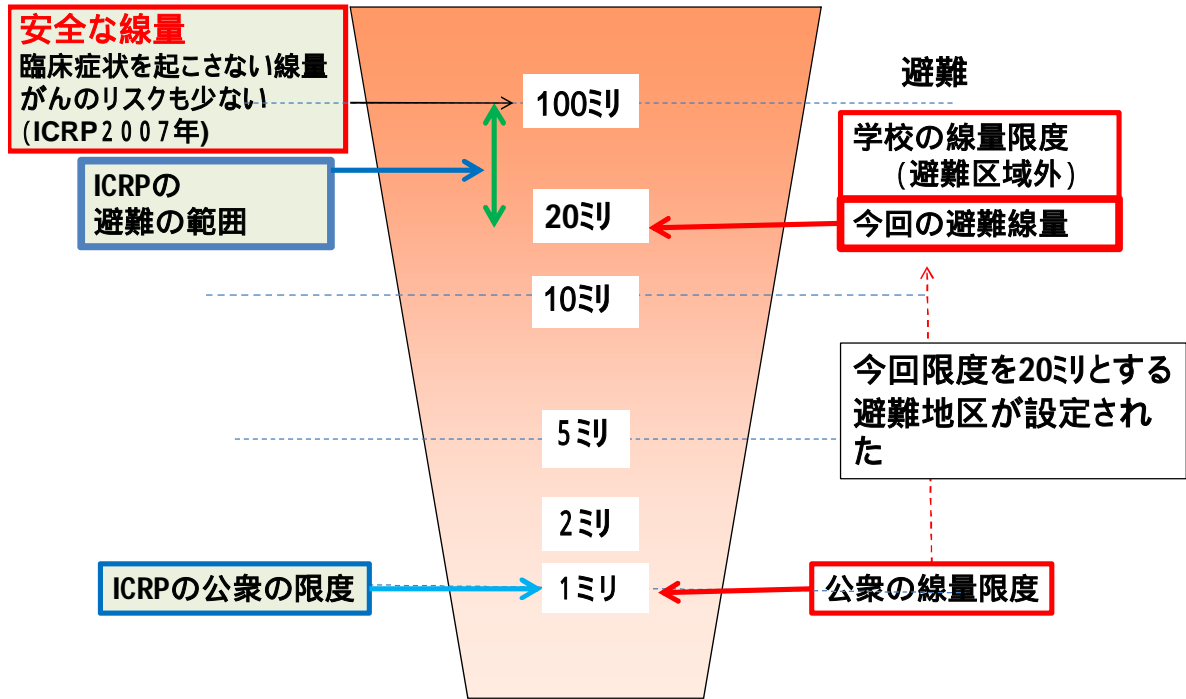
- 放射線医学総合研究所

100mSvは安全な線量である
がんの確率もたばこの害より低い

- 産科婦人科学会

成人は100mSv, 胎児は50mSvを安全な線量

安全な線量 と 避難線量



食品の規制 2011年3月29日

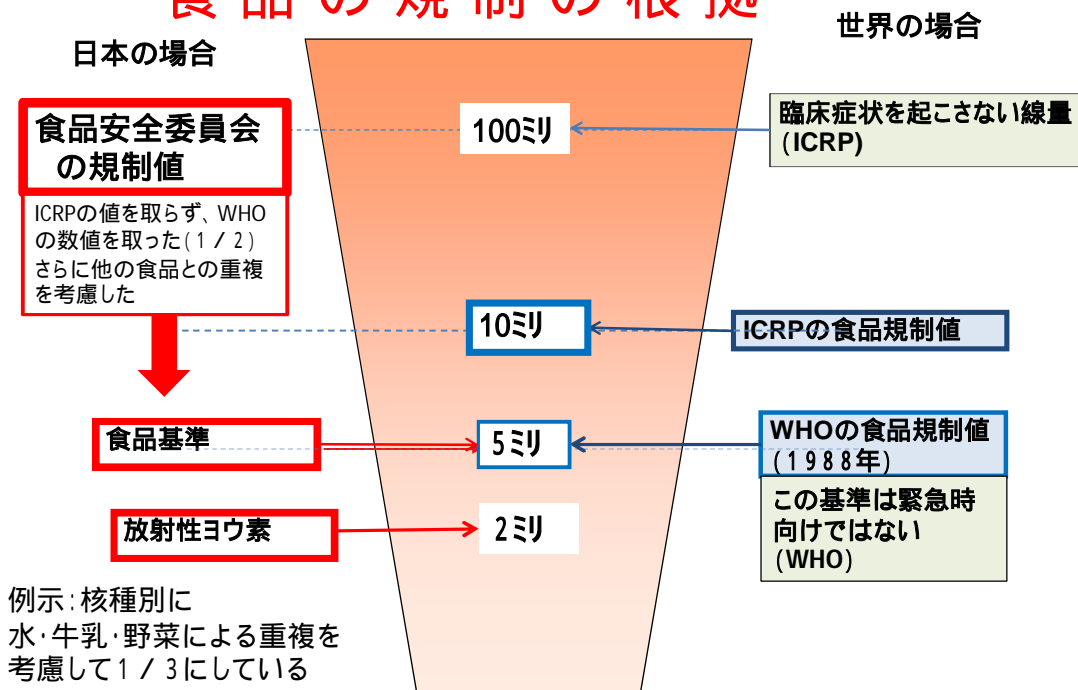
暫定基準 3月17日決定
食品安全委員会決定

- 飲料水:
ヨウ素:300, セシウム:200
- ほうれん草(野菜類)
ヨウ素:2,000, セシウム:500
- 牛乳・乳製品
ヨウ素:300, 200
- 穀類
セシウム:500
- 肉・卵・魚・他
セシウム:500

考え方
まず食品の合計線量を5ミリと決め
次に放射性物質ごとに重複を考慮
例 ヨウ素は
水・野菜・牛乳・その他を考慮して
それぞれの割り当てを2/9とした

注: 1. 単位: ベクレル / kg
2. ウラン及びプルトニウムは省略

食品の規制の根拠



食品規制の国際比較

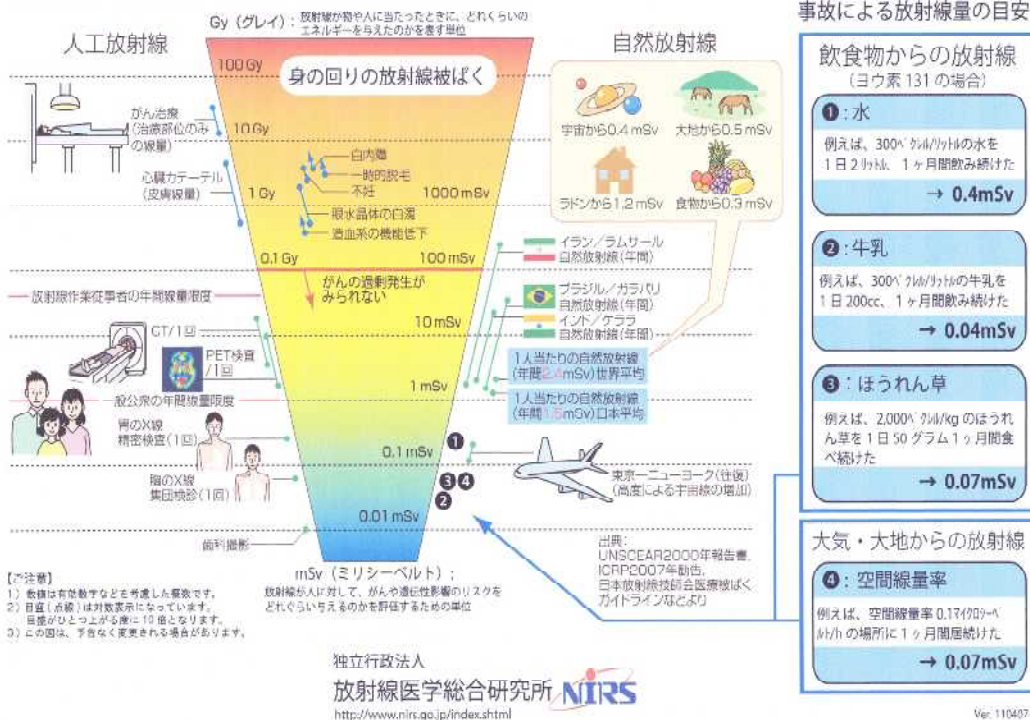
水・乳製品等の規制値

単位: ベクレル / kg

	水・牛乳・乳製品・その他					
	日本		IAEA*	EU		
	水・乳製品	野菜等	水・食糧	水	乳製品	その他
ヨウ素	300	2000	3000(10)	400(1.3)	500(1.7)	3000(1.5)
セシウム	200	500	1000(5)	800(4)	1000(5)	1250(2.5)

注: IAEAの数値は、緊急時の初期段階に適用

放射線被ばくの早見図



水道水中のセシウム濃度と空間線量率

